

# Emerging Leaders Implantable Devices

7月25日(木) 14:30~16:00

Medtronic



神戸大学大学院医学研究科内科学講座・循環器内科学分野

## 高見 充 (たかみ みつる) 先生

2003年 香川医科大学医学部卒業、淀川キリスト教病院 初期研修医

2005年 赤穂市民病院 循環器専攻医

2007年 神戸大学大学院医学研究科循環器内科学分野 医員

2011年 豊橋ハートセンター 循環器内科

2013年 米国メイヨークリニック、循環器内科、リサーチフェロー

2015年 大阪府済生会中津病院 循環器内科

2018年 神戸大学大学院医学研究科内科学講座・循環器内科学分野 特定助教

### 医師としてやり遂げたいゴールは何ですか？

私は「質の高い医療」、「未知の分野の研究」、「若手医師への指導」の3つを大切に日々診療にあたっています。質の高い医療とは、最新のデータや自らの経験を生かし少しでも患者さんの満足度が高く予後を改善できるような不整脈治療を目指しています。また大学病院の医師として臨床研究、基礎研究問わず未知なことを積極的に研究し臨床に役立つデータを発信できればと考えています。若手医師への教育は今後の不整脈治療学発展のために必要不可欠であると考えており、不整脈医を目指す大学院生や若手医師に、デバイス植込み、アブレーション手技そして研究、論文発表などを指導していきたいと考えています。

### Cardiac Resynchronization Therapy(以下 CRT)で着目しているポイントを教えてください。

CRT では、植込みのタイミングが患者さんのレスポンス率にも関わるのではないかと考えています。CRT のインディケーションについてはガイドラインに記載されていますが、各国のガイドラインによって植込み基準は異なります。さらに、CRT 治療開始のタイミングを見極めることはとても難しく、また医師によっても考え方が分かれるポイントかと思います。今回の講演でも、治療開始のタイミングやインディケーションについて議論できればと考えています。

### 今後 CRT の将来について教えてください。

CRT はとても良い治療だと思いますが、手技がさらに容易となりレスポンス率が上がればもっと治療のハードルが下がると感じています。リードなどのツールが改良され手技時間が短くなると、さらに CRT の恩恵を受ける患者さんも増えるのではないかと楽しみにしています。